

授業改善の方向, 効果的指導事例

【中2年生の実践例】

(1) 単元名 持続可能な未来を創るために —不平等のない社会を考える—

「ここにいる」を言う意味 ロバートキャンベル

(2) 本単元についてのつまずき

「話すこと・聞くこと」の領域のうち, 読み取ったことや聞き取ったことを共有(話し合うこと)しながら考えをまとめたり, 広げたりする活動である。新聞投書に寄せられた言葉から, 互いの立場を明確に理解して相手に発信することが課題と言える。聞き取ったことを基にしながら全体の構造をつかみ, その上で自分の考えを形成して持続可能な未来を創るために何が必要か書くことが求められる。

(3) 実態解消に向けた指導例

① 学習指導要領との関連

- 異なる立場や考えを想定しながら集めた資料を整理し, 伝え合う内容を検討すること。
(A 話すこと・聞くこと — ア 話題の設定, 情報の収集, 内容の検討)
- 根拠の適切さを考え, 説明や具体例を加えながら, 自分の考えが伝わる文章になるよう工夫すること。
(B 書くこと — ウ 考えの形成, 記述)

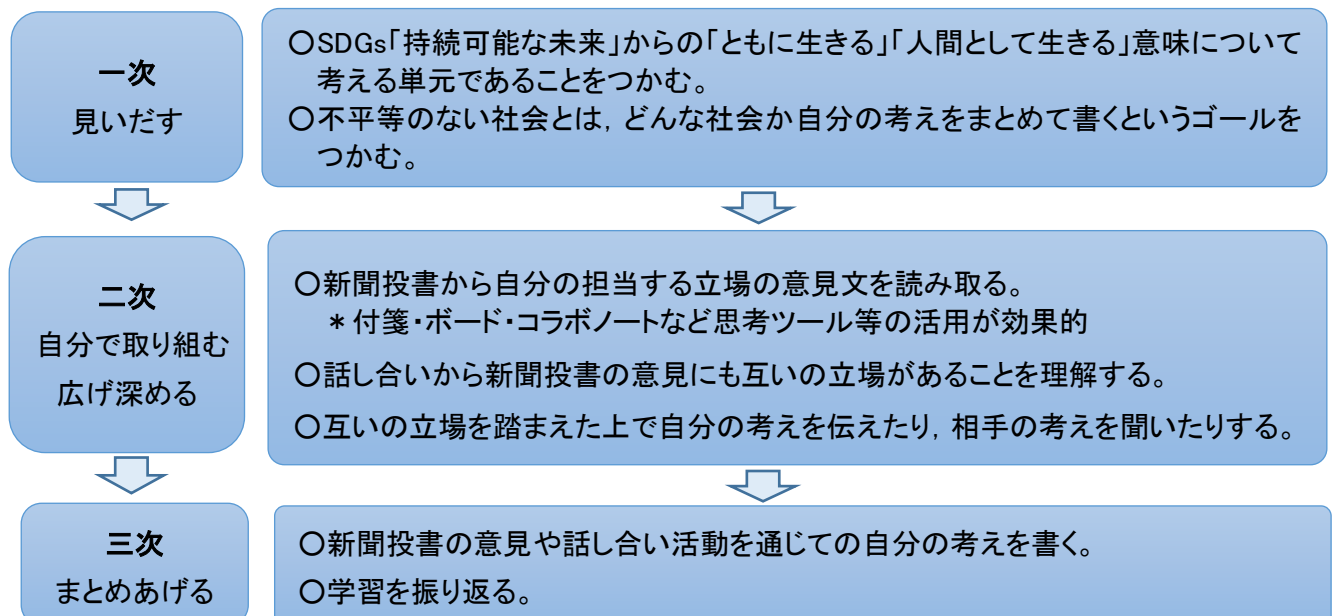
② つけたい力に合った言語活動

読み取ったことや聞き取ったことを共有して話し合う
持続可能な未来を創るために何が必要か考えを書くこと

< ICT との関連 >

新聞投書に寄せられた言葉(互いの立場)をコラボノートなので要点をメモとして用いながら共有することは有効(付箋やボードなどでも良い)

③ 単元の構想(例)



④ 指導のポイント!

話し合いの段階では学校の実態により2段階に分けても良い。異なる立場や考えを想定しながら集めた資料を整理する段階とそれを踏まえた上で自分の考えや相手の考えを伝え合う段階である。異なる立場や考えを整理するためにコラボノートなので全体構造を共有することもゴールを達成する上で効果的。